

授業に役立つ
国際理解/開発教育実践の第一歩

JICA地球ひろば

平成21年度
教師海外研修
授業実践報告書集

東京都教員【ラオスコース】

LAOS



JICA LIBRARY
1208292 [1]

地球ひ
J R



独立行政法人 国際協力機構



目次

■ 目次	01
■ はじめに	02
■ JICA 地球ひろばのめざすもの / 「JICA 地球ひろば 教師海外研修」とは？	03
■ 研修のながれ	04
■ 海外研修日程	05
■ 海外研修トピックス	06
■ ラオス情報	08

■ 研修を活かした授業実践例

実践者 学校名	授業実践学年	タイトル	授業実践教科	
青野 志保 大田区立東六郷小学校	小3	世界について知ろう！考えよう！	総合的な学習の時間	10
濱中 ユキ 羽村市立武蔵野小学校	小3	ラオスの学校に大潜入！！	総合的な学習の時間	14
松下 優子 府中市立本宿小学校	小4	世界に窓を開こう！	総合的な学習の時間	18
汐中 義樹 足立区立中島根小学校	小5	「No Chaos No Laos」	総合的な学習の時間	21
薄井 可奈 練馬区立大泉第三小学校	小5	日本から世界へ～ラオスを見つめて～	総合的な学習の時間	24
三箇 昭子 北区立桐ヶ丘郷小学校	小5	お米ワールド～お米で世界とつながろう～	総合的な学習の時間	30
滋野 卓也 品川区立延山小学校	小6	「豊かさ」って何だろう？	市民科	34
横谷 秀幸 あきる野市立東秋留小学校	小6	途上国に目を向けよう～見えないつながりを見つけて～	総合的な学習の時間	39
持丸 博一 目黒学院中学・高等学校	中1	「幸せ」の定義	道徳	45
海老名 利亮 昭島市立昭和中学校	中3	開発途上国を知る～ラオスと日本の違い～	総合的な学習の時間	50
赤塚 祐哉 東京都立大島高等学校	高1	ラオスを知る・身近な幸せを考える	オーラルコミュニケーション	55
佐藤 安弘 東京都立目黒高等学校	高1	ラオスの人口問題	地理	60
藤木 優子 東京都立松原高等学校	高3	Sabai dee LAOS!～ラオスで考えた「幸せ」と「豊かさ」～	リーディング、ライティング	64
相沢 友紀 東京都立城北特別支援学校	小1～6	ラオスについて知ろう	特別活動	68

■ 参考資料	72
--------	----

■ 参加者氏名／同行職員より	14567	77
----------------	-------	----

はじめに

独立行政法人国際協力機構（JICA）が実施している「教師海外研修」は、国際理解教育および開発教育に関心のある先生方が、開発途上国の置かれている現状と日本との関係への理解を深め、その成果を次世代を担う児童・生徒の教育に役立てていくことを目的に実施しています。毎年全国で約150名の先生方に、国際協力の現場での関係者や現地学校との交流を通じて、多くの教材を持ち帰っていただいています。

今年度は「JICA 地球ひろば」より1都6県（栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、新潟県、山梨県）から合計36名の先生方にご参加いただき、国内研修を経てラオス、モンゴル、マレーシアの3カ国を訪問しました。

国内研修では、国際理解教育の基礎および訪問先の国事情といった多くの情報を吸収し、考え方・手法を学びました。また帰国後は各都県において授業実践報告会を開催し、過年度参加者と共に地域での国際理解教育のネットワークが広がるきっかけづくりとして、企画・実施をしています。

本書では、教師海外研修に参加した先生方から、それぞれの学校や地域において実践された様々な事例をご紹介します。受講者の感想や授業作りのポイントも随所に掲載されておりますので、それぞれの「授業での活かし方」を多くの教育現場で参考にいただければ幸いです。

なお、東京・広尾にあります「JICA 地球ひろば」は、市民参加による国際協力の拠点として、多くの市民の方々にご活用いただいています。展示・相談スペースや図書室、途上国の料理を味わえる「カフェフロンティア」もあり、修学旅行や社会科見学での活用、国際理解についての調べ学習、その他先生方の国際理解教育の相談にも対応させていただきます。ぜひ「JICA 地球ひろば」にお越し下さい。

平成22年2月

JICA 地球ひろば
所長 貝原 孝雄



1208292 [1]

JICA 地球ひろばのめざすもの

JICA 地球ひろばは、市民参加による国際協力の拠点として多くの市民が訪れ、途上国の人々への共感や連帯感を育む場となり、国際協力に関わる市民団体の情報発信や交流、研修の拠点として利用される場となることを目指して設立されました。

この JICA 地球ひろばでは、皆様の国際協力活動を応援し、ボランティアの心で国際協力に参加する人々が増えること、地域社会での体験に根ざした市民による国際協力がより確実に途上国の住人ひとりひとりに届くことを推進したいと考えます。

「JICA 地球ひろば 教師海外研修」とは？

◇研修の目的

開発教育 / 国際教育 / 国際理解教育に取り組んでいる、または今後取り組む意欲のある教員を対象に、開発途上国での研修を通じ、途上国の置かれている現状と日本との関係を深め、その成果を次代に担う児童・生徒の教育に役立てていくことを目的として実施します。

また、研修参加後、JICA 地球ひろばと協力し、地域や教育現場で開発教育 / 国際理解教育の推進に活躍していただくこともねらいとしています。

◇応募資格

- ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、高等専門学校（1～3年）、特別支援学校等、及び教育委員会において教育活動に従事していること。
- ・年齢が応募締め切り時満50歳以下であること。
- ・所属校の校長（教育委員会においては所属長）の推薦があること。
- ・過去に、本研修、JICA海外ボランティア事業、JICA専門家、ODA民間モニター等で海外に派遣された経験がないこと。

◇平成 21 年度研修国

- ・ラオス（東京都）
- ・モンゴル（埼玉県・千葉県）
- ・マレーシア（栃木県・群馬県・千葉県・新潟県・山梨県）

◇海外研修期間

- ・約 10 日間（毎年 7 月下旬～ 8 月上旬に実施）

◇募集時期

- ・毎年 4 月上旬～ 5 月上旬

◇お問い合わせ

JICA 地球ひろば 地域連携課

Tel : (03) 3400-7327 Fax : (03) 3400-7394

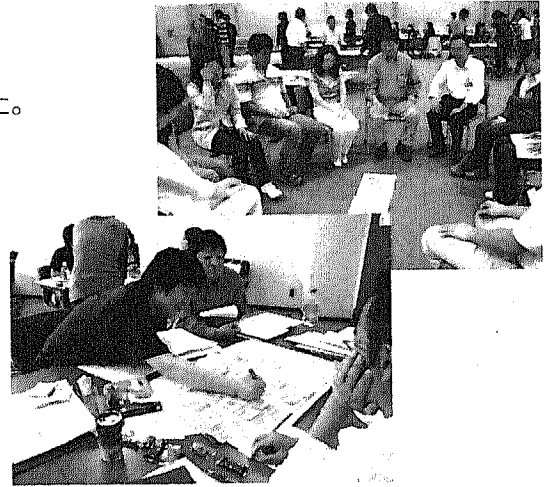
研修の流れ

◇第1次～3次研修

■ 第1次研修：6月13日（土）～14日（日）
授業実践において役立つ参加型学習について学びました。

■ 第2次研修：6月28日（日） **都県別で実施**
帰国後の授業実践をより実りあるものにするために、
海外研修における目的を再確認しました。

■ 第3次研修：8月2日（日）
出発前の最終確認をしました。
さあ、いよいよ研修国に向けて出発です！



◇海外研修

8月3日～12日（10日間）詳細は5～7ページを参照ください。
研修国の現状を実際に自分の目で見て肌で感じ、
様々なことを考えました。

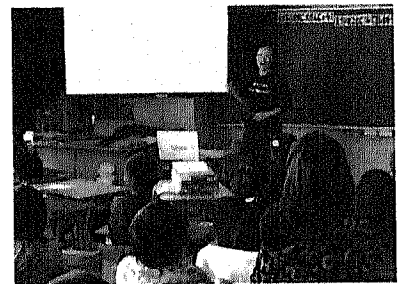


◇帰国時研修

8月23日（日）
海外研修で得られた資料を活用する授業について考えました。

◇各校での授業実践

9月～12月
研修で得られた経験、資料を活かし、
参加者がそれぞれ授業を実践しました。



◇授業実践報告会

■ 都県別授業実践報告会：2月7日（日） **都県別で実施**
研修で得られた経験、資料を活かして実践した授業について報告しました。

■ 全体成果報告会：3月7日（日）
1年間の研修を振り返り、次年度への展望を参加者全体で考えました。本研修の総決算です。

海外研修日程

研修テーマ：グローバル化と途上国

月日	曜日	時間	内 容	ねらい	場 所
8月3日	月		→成田発→ビエンチャン		
8月4日	火	午前	【JICA 事務所】 ブリーフィング	JICA 事業全般の概要把握 滞在ブリーフィング・留意点など	ビエンチャン
		午後	【保健医療・青年海外協力隊】 母子保健病院	JICA ボランティア活動・病院を通じ た現地保健医療事情の理解	
			【無償資金協力】 国道一号線 【国境視察】 タイーラオス友好橋	JICA 事業の理解	
8月5日	水	午前	【学校視察】 Thong Kang 小学校	教育現場の理解、教師との意見交換、 理科授業の実施	
		午後	【学校視察】 Sisattanak 前期中等学校 【JICA 関係者との懇親会】	教育現場の理解 現地で活動する日本人との意見交換	
8月6日	木	午前	→ビエンチャン→ルアンパバン		ルアンパバン
		午後	【教育機関視察・青年海外協力隊】 ルアンパバン県教育局、幼稚園教育	JICA ボランティア活動・ 幼児教育を通じた教育現場の理解	
8月7日	金	午前	【幼稚園視察】 ルアンパバン市内幼稚園 【学校訪問・シニア海外ボランティア】 ルアンパバン教員養成短期大学 (TTC)	JICA ボランティア活動・ IT 人材育成を通じた高等教育の理解	
		午後	【NGO・交流】 子ども文化センター (Child Culture Center)・文化交流	NGO 活動の理解 現地文化交流を通じた相互理解	
8月8日	土	終日	【フィールドワーク】	農村や民家をグループで訪問 市民、少数民族の生活理解	
8月9日	日	午前	→ルアンパバン→ビエンチャン		
		午後	【中間振り返り】 ワークショップ	研修前半及び全体の振り返り・整理	
8月10日	月	午前	【NGO の活動・草の根技術協力事業】 ビエンチャン県立図書館： シャンティ国際ボランティア会 (SVA)	NGO-JICA 連携案件の理解 NGO の教育活動の理解	ビエンチャン
			【有償資金協力】 ナムグム水力発電事業 (ナムグム・ダム)	JICA 事業の理解	
		午後	【NGO-JICA ジャパンデスク (JICA FE)] 振り返りセッション	研修後半及び全体の振り返り・整理	
8月11日	火	午前	海外研修まとめセッション 市内散策・教材収集	研修全般の振り返り総括 授業実践のためのアイデアを整理	
			【JICA 事務所】 研修報告	研修総括、事務所への研修報告	
		午後	【市内視察】 開発教育関連教材収集	教育現場で実践可能な教材の調達	
			→ビエンチャン発		
8月12日	水	午前	成田着		

海外研修トピックス

◇母子保健病院

病院現場視察を通じて現地保健医療事情の理解を図ると共に、青年海外協力隊活動について話を伺いました。

【参加者の感想】

*日本の医療制度がどれだけ発達しているかを改めて実感した。日本とラオスの死生観のギャップなど根本的に考え方が異なっていることが印象的だった。



◇国道一号線・友好橋

日本(国道一号線・無償)とオーストラリア(友好橋)のインフラ援助を視察しました。

【参加者の感想】

*橋の右岸と左岸で国が違う。陸の国境のない日本では体感できない自分の足で越えることができる国境、そしてそれをつなぐ友好橋にはただただ感動するばかりだった。



◇Thong Kang 小学校

ラオスの教育現場を視察し、現状を把握するために現地教員との意見交換を行いました。現地児童に対し日本紹介や理科実験授業も行いました。

【参加者の感想】

*子どもたちは積極的で言語の違いを恐れていないように感じた。違う文化をもつ国の人々とコミュニケーションをとる楽しさをラオスの子どもたちから改めて教えてもらったような気がする。



◇ルアンババン県教育局・幼稚園

幼児教育を通じたラオスの教育現場の理解を図るために青年海外協力隊員を交え現地教員と意見交換を行いました。

【参加者の感想】

*この幼稚園で活動する青年海外協力隊員から伺った、「ラオスの人は仕事よりも家族を大切に、自分の心が平坦であることを大切にする」という話は、'価値観' や '豊かさ'、'幸せ' についてより深く考えるきっかけとなった。

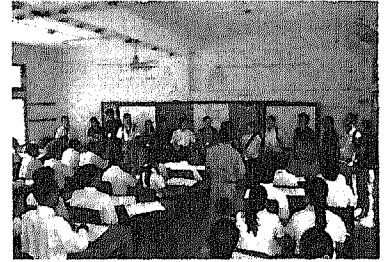


◇ルアンパバン教員養成短期大学

ラオスの高等教育現場の理解を図るために校長先生からお話を伺い、授業見学を行いました。IT人材育成活動を行っているシニア海外ボランティアとの意見交換も行いました。

【参加者の感想】

*夏休みににもかかわらず遠くの村からこの学校の特別講義に参加する先生方の熱意から「より良い授業を作っていきたい」という私たちと同じ思いを強く感じました。中には子連れで講義を受けている先生もいたことに驚いた。

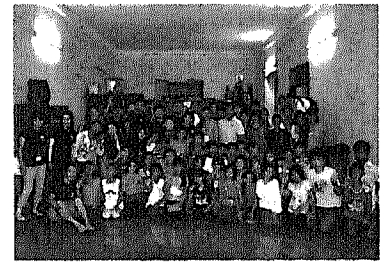


◇子ども文化センター (Children's Cultural Centre)

伝統音楽などを通じた総合的な教育文化活動を行うセンターを視察し、文化交流を通じた相互理解を図るためによさこいなどを披露しました。

【参加者の感想】

*ラオスの伝統的な歌や踊りを披露してもらいとても感動した。異文化理解教育は外国のことだけでなく、母国の文化への理解も深めていかなければならないと感じた。



◇フィールドワーク

現地の日常生活に触れて見識を深めるために、民家訪問や農村視察などを行いました。

【参加者の感想】

*「幸せ」についての聞き取りをしたところ、皆共通して「家族がそばにいるから幸せだ」との回答だった。彼らにとって、幸せのもののさしがお金や地位などだけでなく「家族」という存在が大きいということを強く実感した。

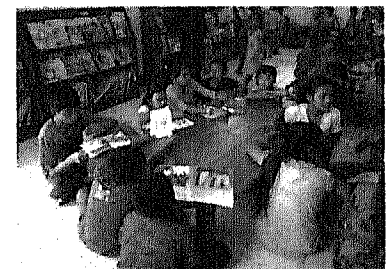


◇ビエンチャン県教育局・図書館

NGO シャンティ国際ボランティア会の活動現場視察を行いました。

【参加者の感想】

*「子どもたちは絵本の中で旅をする」というスタッフの言葉が心に響き、本の充実が子どもの感性を伸ばし、夢を広げる手段になるということを改めて考えさせられた。



◇ナムグムダム

有償資金協力事業の現場視察のためにラオス最大のダムと発電所を訪れました。

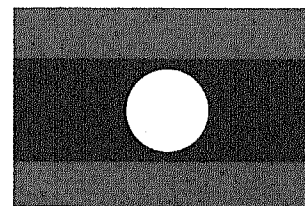
【参加者の感想】

*先進国が途上国を援助する際は、その国にとって本当に必要な物は何かを考え、デメリットを最小にする努力が大切だと考えた。

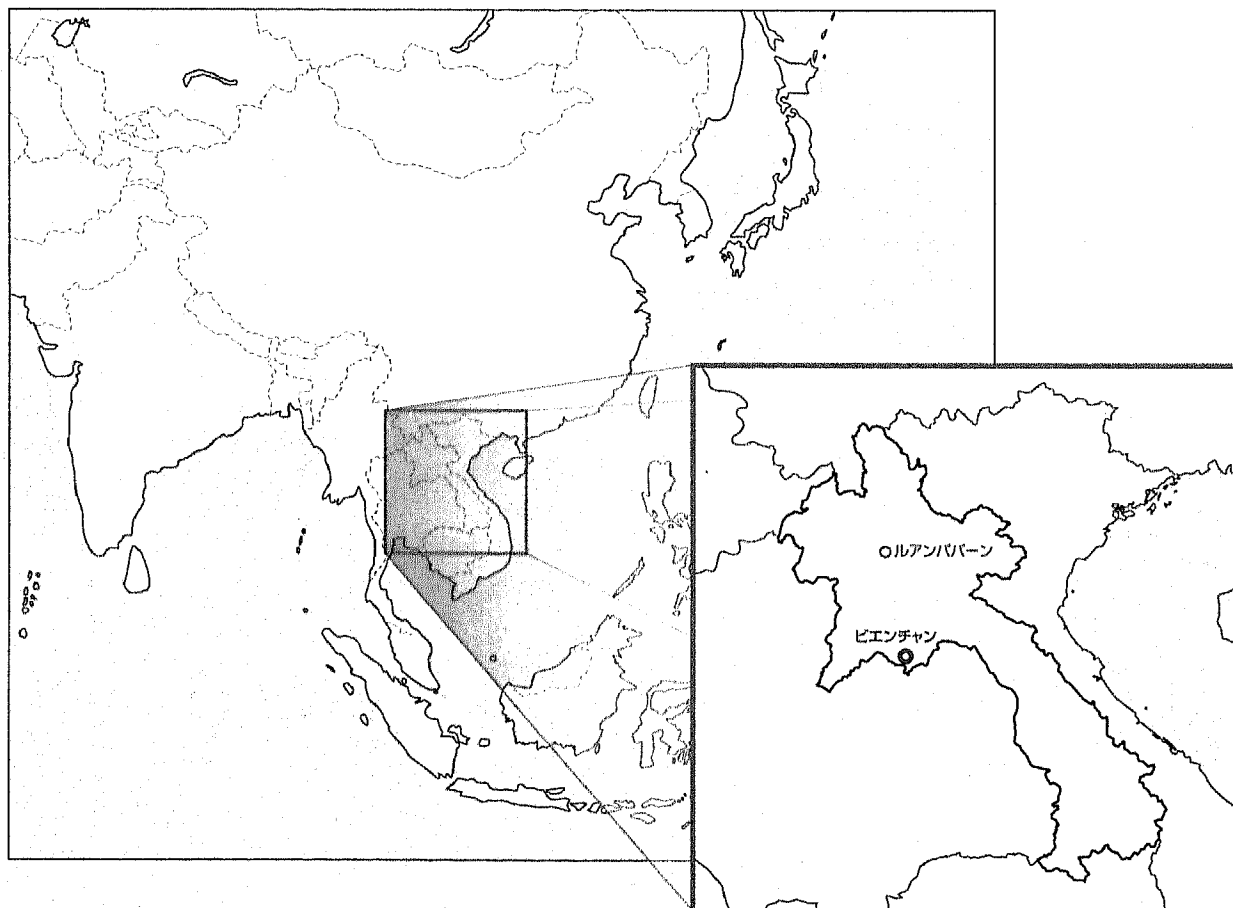


ラオス情報

- (1) 正式名称 (和文) ラオス人民民主共和国
(英文) Lao People's Democratic Republic
- (2) 政 体 人民民主共和制
- (3) 首 都 ヴィエンチャン
- (4) 人 口 580 万人 (2006 年世銀統計)
- (5) 民 族 低地ラオ族 (タイ系) 60%
その他中国系、インドネシア系など 60 以上の民族
- (6) 言 語 公用語: ラオ語
- (7) 宗 教 仏教
- (8) 略 史 0 ~ 13 世紀 雲南省から南下したタイ系民族が北部で諸侯国を興す。
1353 年 ランサーン王国建設により統一ラオス国家成立。
1899 年 フランスによりインドシナ連邦に編入。
1953 年 フランスから独立するが、王国政府とパト・ラオの対立が激化する。
1973 年 ラオス和平協定成立、暫定国民連合政府成立。
インドシナ情勢の急変に伴い、ラオス愛国戦線が主導権を握る。
1975 年 ラオス人民民主共和国が誕生。
- (9) 気 候 熱帯モンスーン気候に属し、高温多湿で雨季 (4 ~ 10 月) と乾季 (11 ~ 3 月) がはっきりしている。12 ~ 2 月が年間を通じて最もしのぎやすい。
ヴィエンチャンの年平均気温は乾季摂氏 22.1 度、雨季 28 度である。
- (10) 通 貨 キップ (Kip)



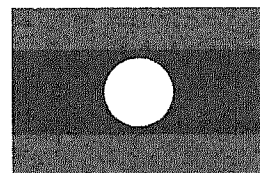
【参考】「JICA HP - 国別生活情報」国際協力機構、「外務省 HP - 各国・地域情勢」外務省



研修を活かした授業実践例

教師、および児童の原文を活かして掲載しておりますので、
一部表現のばらつきがありますがご了承ください。

世界について知ろう！考えよう！



Laos

青野 志保

大田区立東六郷小学校

- 担当教科：小学校全科
- 実践教科：総合的な学習の時間
- 時間数：12時間（4時間×3クラス）
- 対象：小学3年生
- 対象人数：88名

〔1〕授業実践のテーマ・目的

- ・ラオスの文化について知り、日本との共通点・相違点について考えながら、互いの国の良さについて考える。
- ・ラオスや日本について考えを深めることで、異文化や広く世界についての興味・感心を高める。
- ・青年海外協力隊についての紹介や身近な事象から、日本と外国とのつながりについて考える。

〔2〕授業の構成

時限	テーマ、ねらい	方法・内容	使用教材
1	【世界について考えよう】 教師の出す質問に答え、外国についての知識を自ら把握し、これからの授業への関心を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が知っている国名を書いたあと、世界地図を見る ・「100人の村クイズ」に答える ・ポストカードを見て、「どこへ行って来たでしょうクイズ」に答える ・世界地図でラオスの位置を確認する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ版「世界がもし100人の村だったら」 ・世界地図（掲示用） ・世界地図（机上用） ・ラオスから送ったポストカード
2 3	【ラオスについて知ろう】 ラオスの文化や生活について知り、日本との共通点・相違点を見いだしながら、異文化を知ることの重要性に気付く。	<ul style="list-style-type: none"> ・ラオスの写真や文房具、紙幣、民族衣装、食べ物などに触れ、ラオスについて学習する ・日本との共通点・相違点について話し合う 	<ul style="list-style-type: none"> ・ラオスの写真や雑貨など
4	【日本と外国とのつながりについて考えよう】 青年海外協力隊の紹介や輸出入を例にした国際協力の現状等を知り、国と国とのつながりについて考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ラオスで活躍する日本人（青年海外協力隊員）について知る ・いろいろな国と関わり合いながら生活していることについて知り、考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・青年海外協力隊に関する資料・写真 ・世界地図（掲示用）

〔3〕授業の詳細

1 時限目：【世界について考えよう】

①「自分が知っている国」を思いっただけ書く（授業開始の3分間で書く。その後、一人ひとり発表）

個人差はあるが、一人5～10個の国名を書くことができた。多い児童で30個程度の国名が書けた。たくさん書くことのできた児童は賞賛されていた。

②世界地図を見る

世界地図で児童の書いた国がどこにあるかをおおまかに確認した。



③「100人の村クイズ」に答える

男女の比率、子どもと大人の比率、飢餓に関する比率、富に関する比率について考えさせた。日本は世界の中で恵まれている国だということは何多くの児童が認識していた。

④「どこへ行ってきたでしょうクイズ」に答え、ラオスがどんな国かを考える（担任クラスのみ）

研修中に児童へ送っていたポストカードを用意させ、教師はどここの国に行ってきたかを答えさせた。ポストカードの写真はクラス全員異なっており、カードの裏面や角、写真部分に「ラオス」という字が書かれてあるカードを持っていた児童は正解することができたが、そのようなヒントがないカードを持った児童はタイ、中国、カンボジア、アフリカ（の国）、など様々答えていた。

⑤世界地図でラオスの位置を確認し、ラオスについての想像を膨らませる

位置を確認させた後、各々のポストカードを見てラオスという国について想像した。

児童の感想（1時間目）

- （発表の時）ぼくの聞いたことない国がたくさん出てびっくりしました。世界地図を見たら知らない国がまだまだあって、もっとびっくりしました。ニューヨークはアメリカなんだとはじめて知りました。63億はものすごい数なんだなあと思いました。世界にはいっぱい人が住んでいるんだと思いました。
- 日本はお金持ちなんだと思います。自分の国でなんでも作れるから。ぼくは日本に生まれてよかったです。ご飯とかも毎日食べられるからです。ラオスは日本よりびんぼうな国だと思います。なぜかという写真がとてもしなかつぱいからです。
- （ポストカードを見て）同じ国なのにいろんな場所があってふしぎだなと思いました。田んぼの写真はお米を作っているのかなと思いました。顔が日本人とにているけど、何語をしゃべるのかな？知りたいです。

2・3 時限目：【ラオスについて知ろう】

①ラオスについて学習する

以下の項目について学習した。

気候……ポストカードの写真を見て服が半そでなので暑い国ではないかと想像する児童が多かった。「東南アジアなので暑い」と予想している児童もいた。

言語……簡単なラオス語の挨拶をいくつか紹介。文字に関しては現地で購入した言語表を使用した。複雑な字形に「（これが読める）ラオス人はすごい！」の声が上がった。

服装……ラオスの民族衣装「シン」を教師が着用し、服装について説明した。写真に写っていた様々な色や模様のシンを見て、「女の人はおしゃれがたくさんできるけど、男の人は地味だ」ということが印象として多く残った。

学校……学校の敷地内に売店があることに「いいな」の反応。一列に並んで教師の笛の合図で一斉に取り組む、休み時間後の歯磨きの様子にも関心を示していた。

教科書……4冊の教科書の中で児童が最も興味を持ったのが「わたしたちの身の回り」。歯磨きの仕方や掃除の仕方など、丁寧に絵がついて説明されていることに感心していた。

食べ物…ラオスのもち米（カオニャオ）と揚げバナナを持参し、試食させた。においが苦手でなかなか口に出来ない児童もいたが、どのクラスでもおよそ半数以上の児童が「美味しい」と言って、またたく間に平らげた。やはり、食についての関心は高かった。

仏教国…ラオスは国民の大半が仏教徒であることを説明。早朝に行われる托鉢の風景には異様なものを感じたようであった。

陸続き…右岸と左岸で国が異なり橋を渡ると外国に行けるという事実、児童は大変驚いていた。また、多くの国に囲まれているという地理を世界地図で確認させ、日本が島国で海に囲まれているということを把握した。

※その他にも漫画や紙幣などを自由に閲覧させた。



もち米を試食する児童

②日本との共通点・相違点について話し合う

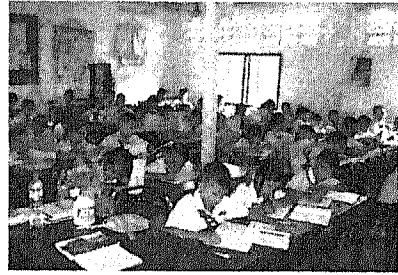
上記の事柄から班で話し合った。話し合いの後、発表。

児童の感想(2・3 時限目)

- お寺がピカピカですごく「はで」。おぼうさんの服も日本のよりも「はで」で、ラオスは楽しい国だと思います。でも、日本のお寺もきれいでわたしは好きです。ラオスの人に日本のいいところもしょうかいたいです。
- 日本は船やひこうきがないと外国には行けません。ラオスは橋を歩いて行ったら外国に行けるのがいいなあと思いました。ほくもラオスに行って、橋の上からメコン川を見たいです。
- ラオスにも学校があるんだとわかりました。日本と一しょだと思いました。一生けんめい黒板の字を写していて、ちゃんと勉強をしててえらいと思いました。歯みがきの水をためる当番とか、日本の学校とにいて、当番とか仕事をちゃんとやるのも日本と同じでした。大切にされていることはにているなと思いました。

【2時限目 使用写真】

学校



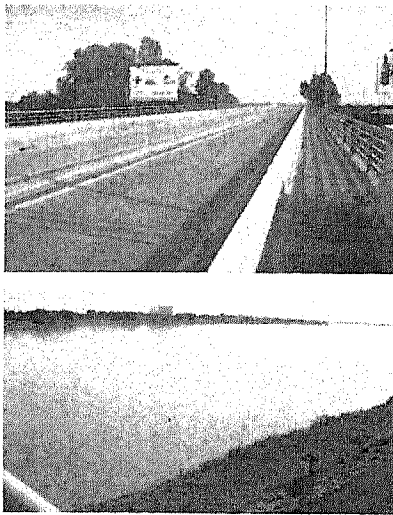
教科書



仏教



陸続き



4 時限目：【日本と外国とのつながりについて考えよう】

①青年海外協力隊について知る

看護師として派遣されている日本人青年の事例を通して、青年海外協力隊について学んだ。何のために派遣されているのか、彼らの願いは何か、等について学んだ。その後、児童は日本とラオスのつながりと「協力するということ」について考えを深めた。

②いろいろな国と関わり合いながら生活していることについて考える

一つの例として、社会科の学習で買い物調べをしたときの資料を提示。エビはインドネシア産、バナナはフィリピン産、小麦はオーストラリア産と、私たち日本人も他国によって支えられて生活していることを振り返った。

③国と国とのつながりについて考え発表する

今までの授業を通しての感想を書いた。その後、交流。



児童の感想〈4 時限目〉

- 外国で日本人が活やくしているのをはじめて知りました。人を助けるために(外国に)行くというのがすごいなと思いました。ぼくにはそんな勇氣はないからです。ぼくはわざわざ外国には行けないけど、ぼくも外国のために何か役に立つことができるのかなと思いました。
- わたしは日本はゆうふくな国だと思っていました。でも、いろんな国のおかげでいろんなものが食べられたり、できたりするんだと思い出しました。世界中のみんなが力をあわせて助けたり助けられたりができるようになったらいいです。この勉強でいろんなことが知れてよかったです。
- ぼくはこの勉強でいろんなことを発見しました。ぼくの知らないところで、日本人はラオスとか外国に協力したりしている。びっくりしました。もっといろんなことを知りたくなりました。
- 世界にはたくさん国があつていろんな生活をしているけど、みんなしあわせになったらすてきです。そのためにわたしも青年海外協力隊になって、働きたくなりました。青年海外協力隊のことをもっと調べてみたいです。

〔4〕授業実践を終えて

ラオスという一外国の文化や生活について知ること、外国について関心を持つ児童が増えたことが本授業の大きな成果である。直接授業を参観していない保護者にもラオスの食べ物紹介やポストカードなどを通して情報を伝えることができ、話題を共有することができた。教師の実体験や具体物・写真などを活用することは、授業を展開していく上でとても有効であった。様々な発見に驚いたり不思議に思ったりしながらも児童はよく考えをめぐらし、ラオスと日本を比べる中で違いを良きものとして受け入れられていたようである。また、その中で、日本の良さを改めて感じることもできた場面も見られた。4 時限目の内容は盛りだくさんになってしまったので、授業内容の精選をしてポイントを絞る必要があった。

これから先も、「知ることの素晴らしさ」と「(国と国、人と人との) つながり」についてさまざまな場面で児童と共に考えていきたい。

〔5〕参考文献(引用文献・参考資料)

- 『新・ワークショップ版「世界がもし100人の村だったら」』 開発教育協会 2003
- 『小野先生のラオス学校だより』 小野 崇 少年写真新聞社 2003
- 『新しく学ぶ 小学生の地図帳』 帝国書院 2005